

熊本市「教諭・主幹教諭（小・中・高・特別支援学校）」の資質向上に関する指標

ステージ		熊本市が目指す着任時の姿	基礎・向上期（1～6年）	向上・充実期（7～15年）	充実・発展期（16年～）
		〇教育に対する知見を深め、求められる資質・能力の基盤を形成する。	〇先輩の指導に学び、組織の一員として誠実に職務を遂行する力を身に付ける。 〇学習指導・生徒指導に関する職務の理解及び指導技術や技能を自らの実践を省察し、学び続けながら修得する。	〇ミドルリーダーとして組織に貢献しようとする意欲と実践力の向上に努め、他の教職員と連携しながら着実に業務を遂行する力を身に付ける。 〇自らの実践を省察することによって、実践的・専門的な知識や技能を修得し、学び続ける力を伸ばす。	〇リーダーとして全校の視野に立った企画力・経営力及びチームで業務を遂行する力を身に付ける。 〇自らの実践を人材育成の視点に立って省察し、学び続けながら、高度な知識や熟練した技能を生かして、他の教職員の力量形成を支援する。
①教職に必要な素養	総合的な人間性・人権意識	□自らの人間性や人権意識の向上に努め、一人一人の児童生徒を尊重しようとしている。	□職務を通して、人間性や人権意識を高め、相手を思いやった言動をとっている。 □児童生徒を個人として尊重し、意見をよく聞きながら職務を遂行している。	□職務を通して、人間性や人権意識を高め、立場の違いや状況の違いに配慮した言動をとっている。 □児童生徒を個人として尊重し、意見の背景までも理解しようとしながら職務を遂行している。 □他の教職員を尊重し、教職員が連携して教育活動に取り組むためのリーダーシップをとっている。	□教職員相互に、人間性や人権意識を高められるような職場となるように働きかけている。 □児童生徒を個人として尊重し、意見の背景や保護者の思い等まで理解しようとしながら職務を遂行している。 □他の教職員を尊重し、特に後輩教員に対して誠実に職務上の支援や助言を行っている。
	教育的愛情・情熱 倫理観・使命感・責任感	□熊本を愛し、教育的愛情をもち、一人一人のよさや可能性に目を向けようとしている。 □法令の遵守と体罰やハラスメント行為等、絶対に許されないことを認識し、教育公務員としての高い倫理観と強い使命感、責任感をもち、職務を遂行しようとしている。 □児童生徒の人格形成に携わる職務の崇高な使命と職責の重さを理解している。	□一人一人の児童生徒の多様性を肯定的に捉え、よさや可能性に目を向け、伸ばそうとしている。 □法令及び服務規律の遵守はもとより、体罰やハラスメント行為等、絶対に許されないことを常に意識し、他の教職員に対して積極的に関わり、教育及び校務を遂行している。 □児童生徒を個人として尊重し、その多様性を認め、児童生徒の考えをよく聞きながら職務を遂行している。	□一人一人の児童生徒のよさや可能性が引き出され、伸ばされるような教育活動を推進している。 □法令及び服務規律の遵守はもとより、体罰やハラスメント行為等、絶対に許されないことを常に意識し、他の教職員に対して積極的に関わり、教育及び校務を遂行している。 □児童生徒を個人として尊重し、その多様性を理解し、児童生徒の考えをよく聞きながら職務を遂行している。	□一人一人の児童生徒のよさや可能性が引き出され、伸ばされるような教育活動を推進している。 □法令及び服務規律の遵守はもとより、体罰やハラスメント行為等、絶対に許されないことを常に意識し、教育公務員としての高い倫理観をもって、職場全体の意識が高まるよう働きかけている。 □児童生徒を個人として尊重し、その多様性の認識を教職員間で共有するように努め、児童生徒の考えをよく聞きながら職務を遂行している。
	社会性・コミュニケーション力	□周囲の状況や相手の思いや考えを汲み取るとともに、自分の考えを伝え、互いを尊重して意思疎通を図ろうとしている。 □組織の一員としての責任感をもち、協働することの重要性を理解し、実践しようとしている。	□児童生徒や保護者に、自分の考えや思いをわかりやすく伝えるときともに、円滑に意思疎通を行い、良好な人間関係を構築している。 □組織の一員としての自己の役割を自覚し、管理職や他の教職員に相談や質問等を積極的に行っている。	□児童生徒や保護者に、自分の考えや思いをわかりやすく説明するときともに、相手の意図を理解し、課題解決を図れるような意思疎通を行い、良好な人間関係を構築している。 □組織の一員としての自己の役割を自覚し、管理職や他の教職員と建設的な意見交換を行っている。	□児童生徒や保護者や地域等に、自分の考えや思いを立場に配慮しながら説明するときともに、相手の意図の背景も含めて深く理解し、新たな方向性を見いだすなど発展的な意思疎通を行い、良好な人間関係を構築している。 □管理職や他の教職員と建設的な意見交換を行い、学校全体で課題解決に取り組めるよう働きかけている。
	自己教育力・専門性・探究力・創造力	□教職員の役割を理解し、職務内容等に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。 □社会の変化に対応して情報を収集し、探究心をもって学ぼうとしている。	□学校における自分の役割を自覚するときともに、自己の課題や多様なニーズをとらえ、専門性を高める研修と実践に取り組んでいる。 □自身や学校の強み・弱みを理解し、研修等で疑問点や悩みを相談しながら、求められる資質能力を身に付けようとしている。	□技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、自らの学びと実践の省察を通じ、課題対応や解決能力を高めている。 □学校の課題を理解し、校内外の研修に積極的に参加するときともに、求められる資質能力を高めようとしている。	□技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、継続的に新しい知識・技能を学び続けていこうとしている。 □全校的な視野に立ち、他の教職員と協働しながら、一人一人の役割と課題解決力を生かして、計画的に課題解決にあたっている。 □組織的・協働的な体制づくりの重要性を理解し、組織マネジメント等の研修にも参加するときともに、人材育成等、求められる資質能力を高めようとしている。
	危機管理能力	□危機管理の重要性を理解している。	□生命や心身を脅かす事案や事故・災害等、危機管理の知識や視点を備え、教育活動に生かしている。	□生命や心身を脅かす事案や事故・災害等、危機管理の知識や視点を備え、安心安全な教育活動を推進している。	□生命や心身を脅かす事案や事故・災害等、危機管理の知識や視点を備え、安心安全な教育活動の推進のため、職場の体制を整えている。
	授業構想力とカリキュラム・マネジメント	□学習指導要領を理解するときともに、単元の目標達成に向けての学習活動や発問を構想し、児童生徒の発達段階を踏まえた授業を展開しようとしている。 □カリキュラム・マネジメントの意義を理解している。	□「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をしようとしている。 □学習指導要領及び自校の指導方針に基づく指導計画を適切に実施している。 □教材研究の大切さを理解し、授業のねらいや児童生徒が身に付ける資質・能力を明確にした授業を設計している。 □教科横断的な視点や幼保小中高連携の視点を踏まえた授業設計を行っている。	□「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいる。 □学習指導要領及び自校の指導方針に基づく学級及び学年の指導計画を立案し実施している。 □児童生徒の実態や地域の特色を生かした教材研究・開発に取り組んでいる。 □育成する資質・能力を明確にし、複数の教科等と効果的に連携を図るときともに、幼保小中高連携の視点を踏まえ、探究的な学習を中心としたカリキュラム・マネジメントを推進している。	□「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学校全体の授業改善に取り組んでいる。 □学習指導要領及び自校の指導方針、地域の特色に応じた学校全体のカリキュラムを編成している。 □探究的な学習を中心としたカリキュラム・マネジメントの確立について、自校の実態や地域の特色、幼保小中高の連携を踏まえ、他の教職員へ指導・助言を行っている。
授業実践・評価・改善	□学習指導要領及び基本的な指導技術を理解し、児童生徒の実態に応じて、双方向的な教育活動を行うようとしている。 □学習評価の意義と方法について理解し、一人一人の学習状況を把握しようとするときともに、自身の教育実践を改善しようとしている。	□校内で進んで研究授業を行ったり、校外（教科等研究会等）の研究授業や研修等に積極的に参加したりして、他の教職員の指導・助言を受けながら授業を実践している。 □日々の授業実践において、学習目的を達成するための指導支援の方法を工夫し、その効果について自己評価を行い、授業改善を図っている。	□得意分野において校内や校外（教科等研究会等）の研究授業を積極的に行うとともに企画・運営に携わり、授業力やマネジメント力の向上を図っている。 □日々の教育実践において、児童生徒の実態や学習成果を適切に評価し、その結果を自分の授業改善に結び付けている。	□得意分野において、校内や校外の研究授業や研究会を積極的に行うとともに、他の教職員への発信や助言を行っている。 □他の教職員と協働しながら、授業実践と改善のための授業評価を行い、主体的・対話的で主体的な学びの実践に貢献している。	
③生徒指導	児童生徒理解と教育相談	□自分の受け持つ児童生徒の実態把握に努め、一人一人の背景を意識して向き合っている。 □児童生徒理解の意義と重要性を理解し、積極的に児童生徒に向き合おうとしている。 □いじめ、不登校等の諸問題について理解している。	□自分の受け持つ児童生徒の実態把握に努め、一人一人の背景を意識して向き合っている。 □学校生活への適応や一人一人の発達を支援するためのガイダンス及びカウンセリングを行っている。 □いじめ、不登校等の諸問題の早期発見、未然防止の重要性を理解し、児童生徒に関することについて、管理職への報告・連絡・相談や他の教職員との情報共有を図るときともに児童生徒、保護者への丁寧な対応を行っている。	□自校の児童生徒の実態を把握し、児童生徒を取り巻く環境を理解して一人一人のよさと可能性を伸ばしている。 □一人一人が抱える課題に個別にガイダンス及びカウンセリングを行うことにより、児童生徒の発達を促進している。 □いじめ、不登校等の生徒指導上の課題や問題について、早期発見、未然防止の重要性を理解し、他の教職員と報告・連絡・相談したり関係機関と連携したりしながら、学年全体の生徒指導を行うとともに児童生徒、保護者への丁寧な対応を行っている。	□様々な情報や経験から児童生徒の特性や状況、背景、変化を的確に捉えて学校全体で共有し、予防的な対応にリーダーシップを発揮している。 □児童生徒の実態に応じた計画を立案し、ガイダンス及びカウンセリングの充実を全校的に広めている。 □いじめ、不登校等の生徒指導上の課題解決に向け、早期発見、未然防止の重要性を理解し、組織的・計画的な対応に努め、必要に応じて様々な機関と連携したり、児童生徒、保護者への丁寧な対応をしたりするときともに、他の教職員への指導・助言を行っている。
	学級経営とキャリア教育	□個や集団を指導するための手立てとして、対話を通した、相互尊重を基底とした学級づくりを意識し、実践しようとしている。 □学級担任の役割と職務内容を理解し、よりよい学びの環境をつくらうとしている。	□学校教育目標を理解し、学級経営や教科教育の方針を立て、一貫性のある指導を行っている。 □児童生徒理解に基づき、対話を通した、相互尊重を基底とした学級づくり学級経営を行い、清潔・安全でよりよい学びの教室環境をつくらうとしている。 □児童生徒の自己の将来を見据え、社会的・職業的自立に向けて、キャリア教育を行っている。	□児童生徒理解に基づき、対話を通した、相互尊重を基底とした学級経営を推進し、児童生徒同士のコミュニケーションを促進し、望ましい学級集団をつくらうとしている。 □学年・学級経営案を反映させ、児童生徒が意欲的に学習に取り組める教室環境を整えている。 □児童生徒の自己の将来を見据え、一人一人の社会的・職業的自立に向けて、教育活動全体を通じてキャリア教育を行っている。	□自らの経験を生かし、十分に振り返りながら、対話を通した、相互尊重を基底とした学級経営を充実させ、互いに高め合う学級集団をつくりノウハウを学校全体に広めている。 □児童生徒の自立に向けて、全校あげて計画に基づいたキャリア教育の実践を推進している。 □地域社会や産業界と連携しながら、教育活動全体を通じて、児童生徒が自分らしい生き方を実現するための力を育成している。
	配慮を要する児童生徒への理解と専門性の向上	□特別支援教育に関わる指導・支援や合理的配慮、及びインクルーシブ教育システムの意義とそのあり方について理解し、学習指導や生徒指導に生かそうとしている。	□インクルーシブ教育システムの意義とそのあり方について理解し、児童生徒の特性を把握し、合理的配慮を重視した指導・支援につながる研修や講座に参加している。 □支援を要する児童生徒の自立と社会参加を見据えて、一人一人の教育的ニーズに応じた学習指導や生徒指導を行っている。	□インクルーシブ教育システムの意義とそのあり方について理解し、児童生徒の特性を把握し、自立と社会参加を見据えて、適切な指導・支援を行うとともに、個に応じた教育環境の整備や校内での組織的な対応、関係機関との連携を図っている。	□家庭や地域での生活も含め、今後の社会的自立を見通した個別的教育支援計画等の作成・活用を進めている。 □児童生徒及び保護者が安心して学校生活を送ることができるよう、他の教職員及び関係機関等との連携・調整を行っている。
④特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応	保護者との連携	□保護者とのコミュニケーションの重要性を理解し、共通理解を図りながら児童生徒への支援を実践しようとしている。	□保護者と日常的に情報交換する機会を設け、学校や家庭での様子を共有し、個別的教育支援計画等の作成・活用に反映している。	□本人、保護者の意向を十分に反映しながら、進学、就労を視野に入れた個別的教育支援計画等の作成、活用、評価、改善を進めている。 □関係機関との情報共有やスムーズな支援の引継ぎを行っている。	□家庭や地域での生活も含め、今後の社会的自立を見通した個別的教育支援計画等の作成・活用を進めている。 □児童生徒及び保護者が安心して学校生活を送ることができるよう、他の教職員及び関係機関等との連携・調整を行っている。
	ICT活用	□学びを深めるため、基礎的な情報機器及び教材の活用について理解し、学習や生徒指導等にICTを活用しようとしている。	□情報機器及び教材の活用についての基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、学習指導や生徒指導にICTを活用している。 □児童生徒の情報活用能力の育成を意図した授業を実践している。	□授業の中でICTを効果的に活用したり教材を開発したりしながら、学習指導や生徒指導の方法を改善している。 □児童生徒の実態に応じて、ICTを活用する主体的・対話的で深い学びを構想し、実践している。	□学習指導や生徒指導の効果を高めるICT活用のために、専門性のさらなる向上に努め、学校全体に指導方法を広める役割を果たしている。 □児童生徒の実態に応じて、ICTを活用しながら主体的・対話的で深い学びの構想や実践を行い、その知見や技術を他の教職員に助言し、学校全体に広めている。
⑤ICTや情報・教育データの活用	情報・教育データの活用	□児童生徒の教育データを蓄積・活用することの意義を理解し、個別の支援や学習・生徒指導の充実に生かそうとしている。 □熊本市の学校の「学校情報セキュリティ実施手順」を理解しようとしている。	□児童生徒の学習データやアンケート等から明らかになった児童生徒の実態に応じて、個別の支援を行っている。 □各校の「学校情報セキュリティ実施手順」を理解し、適切な情報管理ができています。	□学習データやアンケート等の効果的な蓄積を実施するときともに、その結果に基づく学級や自校の改善策を作成・立案している。 □各校の「学校情報セキュリティ実施手順」を理解し、適切に情報を管理するときともに、関係者への啓発活動を行っている。	□自校の課題をデータをもとに分析・整理し、学校全体での年間指導計画の見直しや個別の支援の改善のために活用している。 □各種情報やデータの活用を俯瞰的に捉え、自校の課題解決にリーダーシップを発揮している。 □各校の「学校情報セキュリティ実施手順」を理解し、適切に情報を管理するときともに、他の教職員や保護者・地域住民等への指導・啓発・助言をしている。